

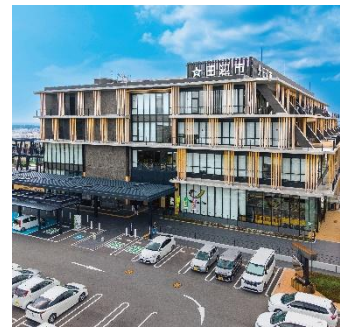
報道関係者各位

2025 年 6 月 18 日
シュナイダーエレクトリック

シュナイダーエレクトリック、和歌山県田辺市の新庁舎のサーバールームにトータル IT インフラソリューションを導入

- ・ HACS による空調効率の最適化で、省電力化とともに災害時には冷却箇所を局所化する仕組みを実現
- ・ 平常時と災害時で役割を分けた 2 台の統合型 UPS で冗長性を確保
- ・ 小型 UPS から大型 UPS への集約による容量の最適化で、省電力化と管理工数削減を実現

エネルギーマネジメントおよびオートメーションにおけるデジタルトランスフォーメーションのリーダーであるシュナイダーエレクトリックは、和歌山県田辺市の新庁舎において、サーバールーム向けのトータルソリューションとして、集約型 UPS や高効率空調などを導入したことを発表しました。



和歌山県田辺市の旧庁舎では、海岸沿いの津波・洪水想定浸水区域に位置しており、老朽化も相まって庁舎の安全性が大きな課題となっていました。これらの問題を解決するため、田辺市は高台への庁舎移設および耐震化・免震化を目的に庁舎移転を決定し、2024 年 5 月に新庁舎が開庁しました。

防災および災害対応の中核を担う新庁舎は、非常時に行政機能を止めることなく継続させるためには、サーバールームの強化も重要な課題でした。市民の命を守ることを第一に考え、非常時に庁舎が機能停止しないよう、発災時にいかにシステムを維持し、行政機能を継続できるかを念頭に、「完全停電時における行政機能の 3 日間維持」を全体目標として掲げ、大量の電力を消費するサーバールームの電力管理を行うことにしました。

旧庁舎ではサーバールーム全体を冷却する方式を採用していましたが、平時と同様の電力が必要となるため、災害時の自家発電運用においては大きな負荷となっていました。そこで導入されたのが、高い排熱効率で平常時から消費電力の低減が期待でき、災害時には必要な機器のみを局所的に冷却できるシュナイダーエレクトリックの「HACS」をはじめとしたトータルソリューションです。

今回、シュナイダーが導入した「HACS」は、IT ラックを囲い込んで暖気の排熱を閉じ込めることで、熱を再循環させずに効率的に冷却を行うシステムです。この方式を支えているのが、局所冷却が可能なラック型空調機「InRow™」と運用効率を向上させるラック「NetShelter™」です。これらの製品を組み合わせることで、従来の部屋全体を冷やす方式では叶わない冷却効率の最大化を実現します。さらに、三相 UPS「Symmetra™ PX」を 2 台導入し、通常電源から電力が供給される瞬電対策用と、停電時に自家発電機からの電力で運用する庁舎機能保全用の 2 つに役割を分けて運用を開始しました。また、旧庁舎では多数の個別 UPS を利用していましたが、UPS を統合したことで一元管理も可能となりました。現在は大型 UPS への集約によってその煩雑さから解放され、各フロアに配置された端末への電力供給も集中管理ができるようになり、効率化を実現しています。

詳しい導入事例資料：https://www.se.com/jp/ja/download/document/CR_tanabe/

導入事例動画：<https://youtu.be/Yft4d8gZmbc>



図：田辺市役所に導入された InRow 空調機

Schneider Electric について

シュナイダーエレクトリックは、あらゆる人がエネルギーや資源を最大限活用することを可能にし、世界の進歩と持続可能性を同時に実現することを目指しています。私たちはこれを「Life Is On」と表現しています。私たちの使命は、持続可能性と効率性を実現するためのデジタルパートナーになることです。世界をリードするプロセス技術やエネルギー技術と、エンドポイントとクラウドをつなぐ製品、制御機 x 器、ソフトウェアやサービスとを、ライフサイクル全体を通して統合し、その統合された管理を住宅、ビル、データセンター、インフラストラクチャ、各種産業に展開することでデジタルトランスフォーメーションを推進します。私たちは、最もローカルなグローバル企業です。社会にとって意義深い目的を持ち、多様な意見を取り入れ自ら行動するという価値観を持って、オープンスタンダードとパートナーシップエコシステムの拡大に尽力します。

www.se.com/jp

Discover Life Is On

Follow us on:



Hashtags: #EcoStruxure #Software #Service